

Slovenia Monthly August 2024

スロベニア マンスリー

発行：在スロベニア日本国大使館 発行日：2024年9月17日



～8月の主なポイント～

外 政：スロベニアによる国際的な囚人交換引渡しへの参加

政治

【内政】

●洪水から1周年【2日】

2023年8月の洪水後の復興を担当する当局は、1年間の進捗状況を振り返り、今後の方向性を検討した。将来の洪水に対する保護対策と、煩雑な手続きの多い住宅の建て替えおよび金銭的補償プログラムの完了が焦点に置かれる。

●洪水後の農業部門支援【5日】

農林・食料省は、2023年8月に発生した大洪水後の農業部門の復興を支援するため、9種類、総額8,550万ユーロの援助を用意し、すでに3,450万ユーロを支払った。農業インフラ、設備、農地、家畜、作物、養殖・漁業への被害額は2億3,700万ユーロと見積もられている。

●デジタル変革相、更迭動議疑惑を否定【6日】

ストイメノヴァ＝ドゥフ・デジタル変革相は、7月に提出された同相に対する野党民主党(SDS)の更迭動議におけるすべての申し立てを拒否した。「怠慢な仕事と公的資金の不正使用の疑い、13,000台のノートパソコンの購入における効果的でない無駄な公的資金管理、国民を誤解させたこと、約束を果たさず職務を遂行しなかったことなど、すべての疑惑を否定する」と大臣の回答は述べており、同6日に政府によって承認された。SDSは、特にストイメノヴァ＝ドゥフ大臣の怠慢な仕事と国民を欺く行為について非難した。

●ヴェセウ氏の欧州委員会委員候補指名【8日、9日】

8日、国民議会EU問題委員会は、スロベニアの欧州委員会ヴェセウ委員候補を支持した。9人が支持、6人の野党議員は棄権した。

9日、政府はヴェセウ氏を正式に欧州委員会委員候補に指名した。

●オブレジェにワンストップ移民手続き施設がオープン【8日】

ノヴォ・メスト警察は、7月末にオブレジェ旧国境検査所に移民手続き施設がオープンしたことを認めた。同施設では警察が全ての所定の移民手続きを行うことができ、また、ソーシャルワーカーが手続きに立ち会う必要がある同伴者のいない未成年者の場合の手続きも容易になる。同センターは一度に100人まで収容でき、移民は亡命センターに移送されるまでの数時間滞在することになる。

●デロの世論調査は、ほぼ半数が政府に不満足であることを示す【12日】

デロ紙の最新の世論調査においては、引き続き最大野党のSDSが最も支持を得た政党となった。回答者の49%が、政府の仕事について不満または非常に不満としており、その割合は前月から約4ポイント増となった。デロ紙は、このような評価の低さは、洪水後の復興の遅さと、それが招いた批判が一因だとしている。

●世論調査、政権に不満も支持率は上昇【19日】

ドネウニク紙が発表したヴォックスポプリの世論調査で、58%以上の国民がゴロブ政権に不満があるにもかかわらず、政権の支持率は上昇を続けていることが明らかになった。ほとんどの回答者は現政権下でも生活の質は変わっていないと答えた。最も人気のある政党は引き続きSDSで支持率23.1%(7月より0.1ポイント増)であり、自由運動党(GS)が17.1%(1ポイント増)で続いた。

●医師労働組合、ニュース・ストライキの要求を政府に提出【21日、22日】

21日、医師と歯科医師の労働組合であるフィデスは、8か月に及ぶストライキが続く中、政府に対して新たな要求を発表した。追加要求は、労働協約第10条aや欧州労働時間指令の実施を含む主要な労働条件に関するものである。

22日、フィデスは21日に政府に示した追加要求を報道陣に発表した。プレヴォウニク＝ルペル保健相は、もしフィデスが医療賃金の独立柱に関する協議に参加していればこの問題はもっと早く解決できたと述べ、フィデスに協議に参加するよう促した。

●洪水救済・復興法改正案を採択【22日】

政府は、昨年8月の洪水からの復興を加速させるため、洪水救済・復興法の改正案を採択した。財務省は、この法案は、昨年成立した同法の実施において浮上した課題に対処し、空間計画策定プロセスを変更し、融資保証制度を被災住民にとってより便利なものにするための法案であると述べた。

●暗号資産市場に関する法案を採択【22日】

政府は、暗号資産市場に関する法案を採択した。これは、透明性を高め投資家を保護することを目的として昨年採択された暗号資産市場に関するEU規制を国内法に移行することを目的としている。スロベニア中央銀行と証券市場庁が所管当局として許可証の発行・撤回、暗号資産サービス・プロバイダーの監視を行うことになる。

●最初の税制改正案が決定【30日】

政府は税制改正案を採択した。税制改正により競争力を向上させ、研究開発に有利な環境を整えているが、ビジネス側は不満を表明している。新法案は外国人熟練スタッフの雇用をより魅力的なものにし、ストックオプションにインセンティブを与えるが、同時に砂糖入り飲料への増税、ビールと蒸留酒への物品税の引き上げ、個人事業主への税制上の優遇措置の緩和をもたらす。

【外政・EU・防衛等】

●スロベニア、受刑者交換でロシア人スパイ2人を引き渡す【1日、6日】

スロベニアは、冷戦終結後最大の囚人交換に参加した。同国は、有罪を認め有罪判決を受けた2人のロシア人スパイを引き渡した。非公式に、ゴロブ首相がバイデン米大統領と交換について話し合った、とニュースポータル『24. ur』が報じた。バイデン大統領はその後、スロベニアを含む米国の同盟国に対し、大規模な捕虜交換への支援に感謝した。

1日、ヴォウク首相府副大臣は、この交換でスロベニアが果たした役割は、集団安全保障の取り組みにおける信頼できる対等なパートナーとしてのスロベニアの地位を再確認するものだと述べた。

6日、2人のロシア人スパイは、ロシア国営テレビ局Rossiya 1の取材に対し、スロベニアでの服役中に、ロシア対外情報庁(SVR)の局員が訪問し、ロシアが彼らの救出に努めているというメッセージを伝えたと述べた。また、彼らは、スロベニアが他国、特にアメリカやCIAから圧力を受けていることを感じていたと語った。

●ファヨン外相によるイラン外相代行との電話会談【5日】

ファヨン外相は、イランのバゲリ外相代行と電話会談を行い、中東における緊張の高まりに懸念を表明し、この地域のすべての関係者による最大限の自制を促した。ファヨン外相は、「この危機に軍事的解決策はない。われわれの集団安全保障は、国連憲章と国際法の尊重に依拠している。ガザとこの地域の即時停戦が必要だ。今こそイランは責任ある行動をとり、国際社会における自らの地位を確認すべきだ」と述べた。

●スロベニア、バングラデシュの平和的な政権移行を促す【6日】

スロベニア外務省はXにて、バングラデシュの全当事者に対し、自制を促し、民主的に選出された政府への平和的な政権移行を確実にするよう要請した。

●北マケドニアの山火事へ再びヘリコプターを派遣【8日】

政府は、EUの市民保護メカニズムを通じて、山火事との戦いを続ける北マケドニアを支援するため、スロベニア軍のヘリコプターを再び北マケドニアに派遣することを決定した。スロベニアが同枠組みのもと北マケドニアの支援要請に応じるのはこの1か月で3度目である。

●スロベニア、ガザ停戦に向けた協議再開を歓迎【9日】

ゴロブ首相と外務省は、イスラエルとパレスチナのイスラム主義運動ハマスとの間のガザ地区停戦交渉を再開するための米国、エジプト、カタールの最新の努力を歓迎した。ゴロブ首相はX上で、パレスチナの人々が直面している破局は直ちに止めなければならないと述べた。また、人質の解放と紛争のエスカレート防止を求めるとともに、パレスチナ・イスラエル問題の唯一の解決策として二国家間解決を促した。

●ゴロブ首相、EU・イスラエル・パートナーシップ協定の見直しを求めるアイルランドの呼びかけに参加【11日】

ゴロブ首相は、ハリス・アイルランド首相が欧州委員会に対し、イスラエルの人権尊重と貿易を規定するEUとイスラエルの連携協定を見直すよう訴えたことに同調し、ガザの惨状に注意を喚起した。ゴロブ首相は、Xにて「ガザの惨状に関するハリス・アイルランド首相の声明に全面的に同意し、EU・イスラエル連合協定の緊急見直しを求める彼の呼びかけを繰り返す」と述べた。

●スロベニア、ガザの学校への攻撃を非難、パレスチナ人を犠牲にしたハマスを非難【14日】

13日、スロベニアは国連安全保障理事会の会合で、イスラエルによるガザの学校への最近の攻撃を断固として非難した。ジュボガル安保理大使は、ハマスが民間人を人間の盾として利用し、パレスチナ市民を犠牲にしていると非難した。

●ピルツ＝ムサル大統領のモンゴル訪問【20日、21日、22日、23日】

20日、ピルツ＝ムサル大統領はモンゴルを訪問し、フレルスフ・モンゴル大統領との会談後、スロベニアとモンゴルは民主主義、法の支配、人権尊重に尽力しており、多国間主義と国際法の尊重を強く支持している、両国は国際舞台で同様の目標を追求しているが、同様の課題に直面していると述べた。

21日、ビジネスフォーラムの開催に協力した商工会議所(GZS)は、ピルツ＝ムサル大統領のモンゴルへの初の公式訪問は、スロベニア経済の扉を開くものであると述べた。ピルツ＝ムサル大統領は、食品生産とスマート農業、持続可能な観光、製薬産業、食品サプリメント、情報学とデジタル化における経済協力を強化する可能性があると述べたと伝えられている。

22日、ピルツ＝ムサル大統領は、世界女性フォーラムの開幕式に出席し、女性の権利の重要性を強調し、モンゴルが女性参政権100周年を迎えたことを祝福した。そして国連指導部における男女平等を訴え、「約79年の歴史の中で、国連総会は74人の男性とわずか4人の女性が議長を務めてきた」と指摘し、この不均衡は容認できないと述べた。

23日、ピルツ＝ムサル大統領は、国際移住機関(IOM)、国連、赤十字国際委員会(ICRC)の代表と数回の二国間会合を行い、モンゴル訪問を終えた。

●国連「平和のための新アジェンダ」を支持【22日】

スロベニア、スイス、シエラレオネの3か国は、武力紛争の防止に焦点を当てたグテーレス国連事務総長の政策概要「平和のための新アジェンダ」を支持する

共同イニシアティブを立ち上げた。武力紛争の増加に対する懸念を表明し、予防的かつ包括的な予防のための努力を約束した。

●スロベニアとアルバニア、農業協力協定に調印【23日】

チャルシッチ農林・食糧相は、有機農業と持続可能な農業生産に関する東欧諸国の代表を招いて開催される会議の傍ら、デナジン・アルバニア農相と協力覚書に署名した。この協力覚書は、農業、植物検疫、獣医学政策における専門家の協力と共同イニシアティブを促進することを目的としている。

●ファヨン外相のアルバニア訪問【26日】

ファヨン外相はアルバニアを訪問し、同国のEU統合に対するスロベニアの支持と、アルバニアができるだけ早くEUに加盟することへの期待を表明した。ハサニ外務大臣、ベガイ・アルバニア大統領、ラマアルバニア首相、スピロパリアルバニア議長との会談では、EUの拡大と二国間関係と協力の強化方法が焦点となった。

●親パレスチナ団体は元イスラエル大臣にブレッドに来ないように要求【26日】

26日、パレスチナ人の権利運動と自由パレスチナ連帯委員会は、近日開催されるブレッド戦略フォーラム(BSF)からリブニ元イスラエル外相の招待を取り消すよう政府に求めた。

28日、連立与党の左派党は、上記の市民社会団体の訴えに参加した。訴えにも関わらず同元外相が出席する場合、同党らはフォーラムのボイコットを呼掛けると述べた。ファヨン外相は、BSFの目的は異なる意見と対面することであると述べた。

●スロベニアはUNIFIL任務の延長への支持を表明【28日】

国連安全保障理事会が全会一致で国連レバノン暫定軍(UNIFIL)の任務を延長する中、スロベニアのオンディナ・ブロカール・ドロビッチ副大使は投票後、本件任務および平和維持活動貢献国に対する同国の強い支持を表明した。同大使は、数日前にイスラエルとシリア派民兵組織ヒズボラとの間で激しい砲撃が行われたブルーライン沿いでの戦闘について「スロベニアは依然として非常に懸念している」と述べ、これが「より広範囲の地域を本格的な戦争に引きずり込む可能性がある」と指摘した。

●ファヨン外相、国際法違反のイスラエル指導者への制裁を支持【29日】

ファヨン外相は、ブリュッセルで開かれたEU外相非公式会合で、国際法に違反するイスラエルの政治指

導者に対する制裁を呼びかけた。討論の中で、同外相は、イスラエルに対するより厳しい貿易・経済制裁の検討と、パレスチナのイスラム主義運動ハマスの指導者に対する制裁の継続を求めた。また、ファヨン外相は、子どもたちが様々な病気、特にポリオの予防接種を受けられるよう、緊急の人道的休止を求めた。

●スロベニア、ウクライナの公正な和平とシリア危機の解決を要求【29日】

ジュボガル安保理大使は、スロベニアと米国が招集した会合で、ウクライナの公正で永続的な和平を訴えた。同大使は、ロシアが民間人や民間インフラへの攻撃を続けていることについて、国際人道法に明らかに違反しており、直ちに停止させなければならないと述べた。28日の別のセッションでは、プロカル＝ドロビッチ副大使が、シリア危機の政治的解決策を見出す努力を促した。

●ゴロブ首相、パリのパラリンピック・チームを訪問【29日】

ゴロブ首相がパリのオリンピック村を訪れ、夏季パラリンピックに出場するスロベニア選手団を出迎えた。ゴロブ首相は、28日にマクロン仏大統領主催の開会式とエリゼ宮でのレセプションに出席した後の訪問となった。

●トルコ外相のスロベニア訪問【30日】

ファヨン外相はトルコのフィダン外相を迎え、世界的な時事問題について話し合う中で、二国間戦略的パートナーシップ協定に署名した。ファヨン外相は、戦略的パートナーシップ協定は、スロベニアとトルコの間の非常に良好な関係を確認し、それらの将来の発展のための道筋を設定すると述べた。両国は今後も中東の平和のために努力していくことを強調した。

●アルジェリア外相のスロベニア訪問【30日】

アルジェリアのアッターフ外相がスロベニアを訪問し、リュブリャナに大使館を開設し、ファヨン外相と会談した。両外相は開館イベントに出席し、大使館の開館は二国間協力への共同コミットメントの証であると述べた。

●EUの一員として800人以上のウクライナ兵を訓練【30日】

国防省チュルンチェク副大臣は、ブリュッセルでの非公式EU国防相会合の後、スロベニアの訓練教官は、EU訓練ミッションの一環として約800人のウクライナ人兵士を訓練したと述べた。訓練は、軍事技術者、救急救命士、射撃手向けのものであった。

●ピルツ＝ムサル大統領、安全保障に関する会議に出席、チェコ・フィンランド大統領と会談【31日】

30日、ピルツ＝ムサル大統領は、プラハで開催された安全保障に関するGLOBSECフォーラム「グローバル技術大国としての欧州」討論会に参加し、EU内の緊密な協力が経済競争力を高め、欧州経済の未来を確保する鍵であると強調した。同大統領は、変化し続ける世界において繁栄と競争力のある欧州を確保するための政策設計に注力する必要性を強調した。

31日、同大統領は、同会議サイドラインで、チェコのパヴェル大統領、フィンランドのストゥブ大統領と会談し、二国間関係および時事問題について議論した。両会談ではスロベニアとそれぞれの国の間の良好で友好的な関係が確認された。同大統領は、2日間の同会議を、BBCのニュース司会者と国連安全保障理事会の非常任理事国としてのスロベニアの経験について議論して締めくくった。

経済・統計・科学技術

●Geoplin、アゼルバイジャンのSOCARと初のガス供給契約に調印【1日】

スロベニア最大のガス供給会社Geoplinは、7月に両社が署名した覚書に基づき、アゼルバイジャン国営石油会社(SOCAR)と最初のガス供給契約を締結した。Geoplin社は、この契約は潜在的な長期的協力に向けた第一歩であると述べたが、契約の詳細については明らかにしなかった。クメル・エネルギー相は、「これでスロベニアのガス供給は文字通り節約され、来冬も確保された」と述べた。

●NLB銀行、半期利益が20%増加【1日】

スロベニア最大の銀行グループであるNLBは、上半期に2億9,200万ユーロの純利益を計上した。純金利収入は同21%増の4億6,040万ユーロとなった。この伸びは、取引高と利ざやの伸びの組み合わせによるものである、と同行は半期報告書で述べた。非金利収入は前年同期比9%増、手数料収入は同11%増となった。経済活動の好影響に加え、投資ファンドやバンカシュアランスの活動が活発化した結果である。

●上半期の財政赤字は37%減少【1日】

財務省が7月31日に発表したところによると、主要な4つの財政勘定を含む一般政府歳入は、上半期に前年同期比11.2%増の134億ユーロに達し、歳出は9.5%増の136億ユーロとなったものの、一般政府赤字は37%減の2億7,500万ユーロとなった。税収は13.8%増の約61億ユーロとなった。国家財政赤字は3億4,600万ユーロで、これは主に2023年の洪水に起因する復興費用によるものである。

●スロベニアの輸出は上半期に7%増、輸入は13.8%増【2日】

スロベニアは2024年上半期に303億ユーロ相当の商品を輸出し、前年比7%増となった一方、輸入は13.8%増の328億ユーロとなった。統計局が発表したデータによると、物の対外貿易赤字は上半期で25億ユーロとなった。今年上半期のスロベニアの最も重要な輸出市場はスイス、ドイツ、クロアチア、イタリア、オーストリアであり、主な輸入市場はスイス、中国、ドイツ、イタリア、インドであった。

●優良銘柄が急落、NLBは6%以上下落【5日】

世界的な株式市場の急落に応じて、リュブリャナ証券取引所の優良株は2.6~6.5%の損失を計上し急落、SBI TOP指数を4.52%押し下げ、1,600ポイントを割り込んだ。179万ユーロ相当の取引が決済されたNLB銀行が6.51%と最も大きな損失を出した。製薬メーカーのクルカ株では120万ユーロの取引が行われ、2.61%の損失となった。NLBファンズは投資家に対し冷静さを保ち、思い切った動きを避けるよう述べた。

●スロベニア、2023年の自転車輸入台数が減少【6日】

2023年にスロベニアに輸入された自転車は約6万2300台で、これは2001年以来最低の数字であることが統計局のデータで明らかになった。2017年から2022年まで、スロベニアは毎年8万台以上の自転車を輸入していたが、この数は昨年急激に減少した。平均すると、自転車の価格は昨年6月から1.2%上昇し、2015年からは18.9%上昇した。昨年、スロベニアで購入された大人用自転車の平均価格は304ユーロだった。

●パリ五輪のスロベニアハウスにおいてビジネスフォーラムを開催【7日】

パリ五輪のスロベニアハウスでビジネスフォーラムが開催され、スロベニアとフランスの間でのビジネス機会やコネクションについて議論が行われた。

●NLB、サミット・リーシング社買収の承認を取得【8日】

大手銀行NLBは、リース会社サミット・リーシングの全株式を取得するために必要なすべての規制当局の承認を取得し、取引は9月中旬に完了する予定であると発表した。NLBは昨年11月、サミット・リーシング社の親会社SLSホールディングとその子会社の株式100%を取得する契約を、米国のファンド・アポロと欧州復興開発銀行(EBRD)が運営するファンドと締結していた。

●小売業や製造業で働く労働者の需要は依然として高い【9日】

スロベニアの雇用市場では、今年上半期、非常に高い人材需要が見られた。最も需要が高かったのは、小売業、製造業、倉庫業、販売業の労働者であった。郵便配達員の需要は過去最高の208%の伸びを記録したことが、世論調査会社Valiconが雇用ポータル(MojeDelo.com)のために実施した調査で明らかになった。同ポータルを運営するStyria Digital Marketplacesはプレスリリースで、2024年上半期も同ポータルに掲載された求人数は多かったが、2023年同期比では4%少なかったと述べている。

●ルカ・コペル、旅客ターミナル建設許可取得との報道【10日】

スロベニア唯一の海港を運営するルカ・コペルは、今週、新しい旅客ターミナルの建築許可を取得したとデロ紙が報じた。建設は11月に開始される予定で、ルカ・コペルが請負業者として選んだのは地元の建設業者Makro 5 Gradnje社である。プロジェクトは税抜きで299万ユーロ、付加価値税込みで365万ユーロと見積もられている。新施設は来春のオープンを予定しており、港湾業者は次のクルーズ船シーズン開始までに準備を整えたいと考えている。

●上半期の工業生産高は減少【13日】

2024年上半期の工業生産高は、前年同期比で2.9%減少した。工業総売上高は1%減少したが、在庫総額は1.4%増加した。工業生産高のうち、電気・ガス・蒸気・空調供給は24.1%減、製造業は0.2%減、鉱業・採石業は14.3%増であった。

●上半期の銀行利益は6%増加【13日】

スロベニアの銀行は上半期、前年同期比6.3%増の4億9,620万ユーロの純利益を計上した。税引前利益は6.8%増の5億6,940万ユーロであった。純利息収益が引き続き増加した一方、非利息収益は減少した。

●スロベニア、第2四半期の経済成長率は0.7%に減速【14日】

スロベニアの第2四半期のGDPは大幅に減速し、実質ベースで年間0.7%の成長となった。経済成長は主に対外貿易によって妨げられた。一方、上半期の年間成長率は1.4%に達したと統計局は発表した。EUと互換性のあるデータでは、4月から6月までの経済成長率は前年同期比0.8%増、第1四半期比では0.2%増となっている。

●テレマツハ社、T-2社を買収し、国との債務和解に達する【14日】

スロベニア・ソブリン・ホールディング(SSH)は、電気通信会社T-2およびテレマックススロベニアとの間で、T-2がSSHに負っている債務の返済について合意に達したと発表した。9,000万ユーロの和解金の一部として、T-2を買収するテレマツハスロベニアは現在SSHに3,700万ユーロを支払い、残りは2027年7月末までに支払う。SSHの発表は、テレマツハがT-2の買収契約に署名したと発表する直前に行われたもので、この契約は規制当局の承認待ちである。

●ブレッド城への観光客、増加傾向【19日】

ブレッド城は、新型コロナ後再び多くの観光客を集めている。城を管理するブレッド文化協会によると、2024年上半期の観光客数は前年同期比12%増の約18万6000人、8月1日までには約24万人に達した。訪問者の約16%がスロベニア人、13%が韓国人、10%がアメリカ人で、ハンガリー、イタリア、ドイツ、クロアチア、イギリス、ポーランドが続いた。訪問者数は、2023年に41万2,000人、2022年に30万人、新型コロナ前の2019年は57万人であった。

●中央銀行のボンバッチ氏、LJSEの新ボスに就任【21日】

リュブリャナ証券取引所は9月1日付で新しい最高経営責任者を迎える。スロベニア唯一の証券取引所の監督委員会は、マルコ・ボンバッチ氏を任命した。8月末で2期目の任期が満了するアレシュ・イパベツツ氏の後任となる。ボンバッチ氏はスロベニア銀行出身で、2020年からリスク管理部長を務めていた。

●NKBMとSKBの合併が正式に完了【22日】

スロベニア第2位と第3位の銀行、NKBMとSKBの合併が正式に完了した。まもなくOTP銀行と改名されるこの銀行は、NLBに次ぐ第2位の銀行となり、本社はリュブリャナに置かれる。業務面(ITサポート、顧客サポート、銀行口座のナンバリングとブランディングなど)では合併は9月2日までに完了する。

●ルカ・コペル、上半期純利益は3%増【22日】

港湾運営会社ルカ・コペルの2024年上半期の売上高は3%増の1億6,330万ユーロ、純利益は同程度の3,280万ユーロとなった。同社は、ほとんどの財務指標が計画目標を上回り、良好な結果であったと発表した。積替総貨物量は1,130万トンと前年同期比で1%減少した。同社は年初に一連の投資を開始し、上半期に前年同期比7%増の2,070万ユーロを投資した。

●トリグラウの上半期純利益は約7倍に【22日】

スロベニア最大の保険会社トリグラウの上半期の純利益は、総契約高および総収入保険料が前年同期比で減少したにもかかわらず、659%増の7,540万ユーロとなった。総契約高は2%減の9億4,300万ユーロ、総収入保険料は3%減の8億6,800万ユーロであった一方、昨年末に廃止された国民健康保険の不足分を考慮すると、総事業高は9%の伸びを記録した。リュブリャナ証券取引所ではトリグラフの株価が7.34%上昇した。

●6月の平均純賃金、実質0.6%上昇【22日】

6月の平均賃金はグロスで2,366.79ユーロ、ネットで1,501.97ユーロとなり、5月比で名目1%減、実質0.6%増であった。6月の平均総賃金は前年同月比5.2%増、平均純賃金は2.6%増であった。6月の平均賃金は公共部門(2,701.33ユーロ)が民間部門(2,214.91ユーロ)を上回った。

●ペトロール、上半期は14%減収、純利益は1%減の5,210万ユーロ【23日】

スロベニア最大のエネルギーグループ・ペトロールは、売上高が14%減の29億ユーロとなったため、上半期の純利益は前年同期比1%減の5,210万ユーロとなった。スロベニアで318のサービスステーション、旧ユーゴスラビアの残りの共和国で261のサービスステーションを運営するペトロール社は、減収の主な原因はスポット市場と先物市場におけるエネルギー商品価格の下落であると述べた。経営陣は、石油製品価格規制の継続を含め、同社は厳しい市場環境にうまく対応したと述べた。

●保険グループ・サヴァの上半期純利益は11.1%増の4,450万ユーロ【23日】

保険グループのサヴァは、上半期の売上高を14%増の5億6,380万ユーロとし、純利益は前年同期比11.1%増の4,450万ユーロとなった。1月から6月までの保険収入は18.2%増の3億8,810万ユーロであった。グループの総保険費用は3億410万ユーロで、2023年上半期を2620万ユーロ上回った。

●8月の消費者信頼感【23日】

スロベニアの8月の消費者信頼感は、7月に比べ1ポイント、前年同月比では10ポイント上昇し、2023年の平均を9ポイント上回った。8月の消費者信頼感は、2022年2月、またはウクライナ戦争開始前以来の高水準となった。これは主に、家計の現在の財政状況に対する楽観的な意見によって押し上げられたもので、4ポイント上昇した。

●7月のスロベニア観光、昨年よりやや悪化【23日】

スロベニアは、国で約290万泊を過ごしたこの7月の観光客の約100万人の到着を記録し、両方の数字は2023年7月に比べて約1%低かった、統計局のデータを示しています。最初の7か月は、到着者数、宿泊数ともに前年同期を上回った。

●ゴロブ首相、ノバルティス社と投資・EU法制について協議【27日】

ゴロブ首相はスイスの大手製薬会社ノバルティス及びそのスロベニア子会社の経営陣と会談した。首相府は、両者はノバルティス・スロベニア社を中心としたグループの事業や、製薬産業などの先端分野への投資の重要性について議論したと発表した。ノバルティスの経営陣は、EU薬事法制に対するノバルティスの立場と、医薬品の基本的なデータ保護を維持するための努力についてゴロブ首相に述べ、また、都市廃水処理に関する欧州委指令についても議論された。

●スロベニア・ブルガリア・ビジネスフォーラムの開催【28日】

ハーン経済相は、AGRA見本市の一環として開催されたスロベニア・ブルガリア・ビジネスフォーラムにおいて、ブルガリアはスロベニアにとって非常に重要なビジネスパートナーであり、協力を促進すべきであり、それができる旨述べた。ツァプル・スロベニア投資促進庁(SPIRIT)所長は、スロベニアは非常に輸出志向の国だが、ブルガリア市場の潜在力を活用できていないため、協力を強化する必要がある旨言及した。

●スロベニア、初の円建て債券を発行【29日】

スロベニアは、サムライ債として知られる日本円建てのシニア債を初めて発行した。国庫は500億円、約3億1,100万ユーロ相当の3年債と5年債を発行した。3年債のクーポンレートは0.75%、5年債のそれは0.89%であると財務省は発表した。「大成功を収めた初回募集により、スロベニアは日本市場に強力な足跡を築いた」と同省は述べた。

●SIJ、1億110万ユーロの全額を未分配に【29日】

ロシアのオリガルヒであるアンドレイ・ズビツキー氏が所有するディロン社が4分の3近くを所有する鉄鋼グループSIJの株主は、本日の年次総会において、貸借対照表上の利益1億110万ユーロを未分配とすることを決定した。さらに、国営工具メーカーで自動車部品サプライヤーのユニオールが保有する自社株10株を購入することも承認された。

●上半期のサービス・商品収益は1.9%増【29日】

スロベニアにおけるサービス業および小売業の上半期の売上高は、前年同期比で1.9%増加した。最も増加したのは情報通信業であった。統計局が発表したデータによると、上半期のサービス業売上高は1.9%増、小売業売上高は1.7%増であった。

●昨年の推定GDP成長率を2.1%に格上げ【30日】

統計局のデータによれば、昨年のスロベニアの国内総生産(GDP)は、実質ベースで年間2.1%増加した。年次修正後、2023年のGDPは639億5,100万ユーロとなり、名目ベースで前年比12.4%増、実質ベースで2.1%増となった。

●8月の年間インフレ率は0.9%に低下【30日】

統計局によると、スロベニアの8月の年間インフレ率は0.9%に低下し、2021年3月以来初めて1%を下回った。月次ベースでは0.2%のデフレを記録したが、これは主に夏物セールによるものである。

●スロベニアと韓国の麻製品企業が覚書を締結【30日】

スロベニアのヘンプ製品メーカーPharmaHemp社は、韓国の医療製品メーカーT&L社と開発・生産に関する覚書を交わした。両社は麻エキスを配合の医療用絆創膏を共同開発する。T&L社は現在、マリボルに400万ユーロを投じて新工場を建設中である。

治安

●コチェウリエで発砲事件【8日】

スロベニア南東部コチェウリエにおいて、夜、2台の乗用車が何者かから発砲され、損壊する事件があった。発砲は数発に及んだが、幸いにも車の運転手にけがはなかった。

●依然として山岳事故があいつぐ【15日】

観光シーズンに伴い、8月中も引き続き山岳事故が頻発した。またコバリドでは、パラグライダーの墜落による死亡事故も発生することとなった。警察は、十分に準備して登山に臨むこと、天候急変時には安易に行動しないこと、複数人でなるべく専門家とともに行動することなどを注意喚起している。

●マリボルで発砲事件【17日】

マリボルのナイトクラブ前の路上において、35歳の男が別の者との口論中に銃を発砲した。発砲は威嚇目的で、空に向かってなされたため、幸いけが人は出なかった。男は警察に逮捕されたが、間もなく釈放された。

●エムポックスへの警戒を強化【16日】

エムボックス(サル痘)変異株の流行に関するWHOの緊急事態宣言を受け、政府は国内で感染者が確認された場合の対応要領を策定した。エムボックス感染者の死亡率はアフリカで高まっているが、医療水準の高い欧州においては、大幅に低下するものとみられている。

●ロマ集住地区で警察活動を強化【23日】

ノヴォ・メストなどスロベニア南東部のロマ集住地区における治安悪化を受け、警察は7月以降、これらの地区での活動を強化している。主に犯罪抑止、事件捜査、巡回強化と情報発信を通じ、住民の安心感付与に努めているという。

●サポーターの暴動で試合が一時中断【29日】

リュブリャナ・ストジツェスタジアムで開催されたクラブサッカーのNKオリンピア・リュブリャナ(スロベニア)対HNKリエカ(クロアチア)の試合で、リエカ側サポー

ターが花火や松明をピッチに投げ込み、警察部隊と乱闘になる騒ぎがあった。この混乱で試合は数十分になたって中断され、警察官7人が負傷した。警察はクロアチア人1人を逮捕するとともに、主催者側の警備体制の脆弱さを指摘した。

社会・文化・スポーツ

【スポーツ】

●ヤニャ・ガンブレット、女子ボルダー&リードで金メダル獲得【10日】

東京2020大会の複合種目で金メダルを獲得したスロベニアのヤニャ・ガンブレット選手が、金メダルを獲得した。同選手は、パリで開催されたオリンピック大会の女子ボルダー&リード決勝で1位となり、スロベニアにとって今大会3つ目のメダルを獲得した。

スロベニア日本国大使館

電話: +386-1-200-8281 又は 8282 Fax: +386-1-251-1822、Email: info@s2.mofa.go.jp

Web: http://www.si.emb-japan.go.jp/website_jp/index_j.html

●本資料は、スロベニアに関心のある方であれば誰でも受け取ることができます。新たに配信を希望される方、あるいは今後配信を希望されない方は、以下のメールアドレスにご連絡ください。

info@s2.mofa.go.jp

【領事班からのお知らせ】

●スロベニアに90日以上滞在される方は、在留届を提出してください。在留届は、渡航前にオンラインで提出することも可能です。また、住所・連絡先の変更、同居家族の追加など、提出済み在留届の記載事項に変更が生じた場合は「変更届」を、帰国や当館管轄地域外へ転出する場合は「帰国・転出届」を必ずご提出ください。

特に、当館からの重要な連絡が確実に皆様が届くよう、E メールアドレスや携帯電話番号の変更は速やかに届出をお願いいたします。

●大使館で受け付けている手続の一部は、夜間、休日等を問わずオンラインで実施可能です。詳しくは以下のリンク先をご確認ください。

【在留届】 <http://www.ezairyu.mofa.go.jp/>

【各種証明・手数料決済】 https://www.si.emb-japan.go.jp/itpr_ja/11_000001_00834.html

【旅券(パスポート)】 https://www.si.emb-japan.go.jp/itpr_ja/11_000001_00740.html

●現在マイナンバーカードを持っていない国外在住者(2015年10月5日以降に国外転出をした方に限る。)も、マイナンバーカードの発行を受けられるようになりました。申請は在外公館窓口等で可能です。詳しくは以下のリンク先をご確認ください。

【外務省 HP】 <https://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/todoke/maina.html>

●海外に住んでいる人が、外国にいながら国政選挙に投票することを「在外投票」といいます。在外投票ができるのは、日本国籍を持つ18歳以上の有権者で、在外選挙人名簿に登録され、「在外選挙人証」を持っている人です。

在外選挙人証の交付手続は、申請から受け取りまでに通常約2か月かかります。交付を希望される方は、余裕を持って申請を行ってください。

●当地での在留許可手続等で必要となる警察証明(犯罪経歴証明)については、申請から受け取りまでに通常約2か月かかります。交付を希望される方は、余裕を持って申請を行ってください。

●ここがモヤモヤしたり、ざわついたりするときは、相談してみませんか？

外務省は、特定非営利活動法人と連携して海外在住日本人の孤独・孤立対策の支援を行っています。海外にいても、SNSやチャットを使って日本語で相談できます。相談は無料です。

【外務省HP:孤独・孤立及びそれに付随する問題でお悩みの方へ】

<https://www.anzen.mofa.go.jp/life/info20210707.html>

【広報文化班からのお知らせ】

●最新情報は、当館フェイスブックでチェック！

<https://www.facebook.com/Embassy.of.Japan.in.Slovenia/>